

国語

Criterion A Analysing 分析

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
1 to 2	生徒は i. テキストの重要な側面について最小限の認識と意見を示す	生徒は i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について最小限の特定や説明をするが、テキスト間の関係性を説明しない	生徒は i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について最小限の特定や説明をするが、テキスト間の関係性を説明しない	生徒は i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル(文体)と、複数のテキスト間の関係性について限定的な分析を行う	1 to 2
	ii. 作者の選択に関して最小限の認識と意見を示す	ii. 作者の選択が受け手に与える効果について最小限の特定と説明をする	ii. 作者の選択が受け手に与える効果について最小限の特定と説明をする	ii. 作者の選択が受け手に与える効果について限定的な分析を行う	
	iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることがまれにしかない。用語をほとんど/全く用いない	iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることはまれにしかない。用語をほとんど/全く用いない	iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることはまれにしかない。用語をほとんど/全く用いない	iii. 例や説明を用いて意見や考えの理由を述べることがまれにしかない。ほとんど/全く用語を用いない	
	iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をほとんど特定しない	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈することはまれにしかない	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈することはまれにしかない	iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって最小限の範囲で関連づけることにより、評価する類似点と相違点はごくわずかである	

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
3 to 4	生徒は i. テキストの重要な側面に関してまずまずの認識と意見を示す	生徒は i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)に関する特定や説明をまずまず行い、またテキスト間の関係性のある程度説明する	生徒は i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)に関する特定や説明をまずまず行い、またテキスト間の関係性のある程度説明する	生徒は i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル(文体)と、複数のテキスト間の関係性についてまずまずの分析を行う	3 to 4
	ii. 作者の選択に関してまずまずの認識と意見を示す	ii. 作者の選択が受け手に与える効果についてまずまずの特定や説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果についてまずまずの特定や説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果についてまずまずの分析を行う	
	iii. 一貫性がないかもしれないが、いくつかの例や説明を用いて意見や考えの理由を述べる。いくつかの用語を用いる	iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えの理由を述べる。いくつかの用語を用いる	iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えの理由を述べる。いくつかの用語を用いる	iii. 一貫性はないものの、いくつかの例や説明を用いて意見や考えを正当化する。いくつかの用語を用いる	
	iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をいくつか特定する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点のある程度解釈する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点のある程度解釈する	iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴を特徴をまずまず関連づける関連づけることで、ある程度の類似点と相違点を評価する	

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
5 to 6	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	5 to 6
	i. テキストの重要な側面に関して内容のある認識と意見を示す	i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について内容のある特定と説明を行い、またテキスト間の関係について説明する	i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について内容のある特定と説明を行い、またテキスト間の関係について説明する	i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、テキストのスタイル(文体)と、複数のテキスト間の関係性を適切に分析する	
	ii. 作者の選択に関して内容のある認識と意見を示す	ii. 作者の選択が受け手に与える効果について内容のある特定と説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果について内容のある特定と説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果を適切に分析する	
	iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる	iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる	iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる	iii. 例や説明を用いて意見や考えを十分に正当化する。正確な用語を用いる	
	iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴の類似点や相違点をいくつか説明する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を適切に解釈する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を適切に解釈する	iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって、内容のある特徴の関連づけを行うことにより、類似点と相違点を評価する	

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
7 to 8	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	7 to 8
	i. テキストの重要な側面に関して鋭い認識と意見を示す	i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について鋭い特定と説明を行い、またテキストの間の関係を十分に説明する	i. 内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル(文体)について鋭い特定と説明を行い、またテキストの間の関係を十分に説明する	i. テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、スタイル(文体)と、複数のテキスト間の関係性を鋭く分析する	
	ii. 作者の選択に関して鋭い認識と意見を示す	ii. 作者の選択が受け手に与える効果に関して鋭い特定と説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果に関して鋭い特定と説明を行う	ii. 作者の選択が受け手に与える効果を鋭く分析する	
	iii. 広範な例や説明によって、意見や考えを詳細に正当化する。正確な用語を用いる	iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えの理由を詳細に説明する。正確な用語を用いる	iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えの理由を詳細に説明する。正確な用語を用いる	iii. 広範な例や説明を用いて意見や考えを詳細に正当化する。正確な用語を用いる	
	iv. テキスト内および複数のテキスト間で特徴を比較・対比する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を鋭く比較・対比する	iv. ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を鋭く比較・対比する	iv. ジャンルやテキスト内、または複数のジャンルやテキストにわたって特徴の広範な関連づけをすることにより、鋭い比較・対比を行う	

国語

Criterion B Organizing 構成

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
1 to 2	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	1 to 2
	i. 組織的構造の使用は最小限であり、また、それが常に文脈と意図に適しているわけではない	i. 組織的構造の使用は最小限で、それが常に文脈と意図に適しているわけではない	i. 組織的構造の使用は最小限で、それが常に文脈と意図に適しているわけではない	i. 組織的構造の使用は最小限で、それが常に文脈と意図に適しているわけではない	
	ii. 意見や考えを、最低限度の論理を用いて整理する	ii. 意見や考えを、最小限の一貫性と論理で整理する	ii. 意見や考えを、最小限の一貫性と論理で整理する	ii. 意見や考えを、最小限の一貫性と論理で整理する	
iii. 執筆のフォーマットの利用は最小限であり、また、それが必ずしも文脈や意図に適している体裁を作成しているわけではない	iii. 執筆のフォーマットを最小限利用し、それが必ずしも文脈と意図に適した体裁を作成しているわけではない	iii. 執筆のフォーマットを最小限利用し、それが必ずしも文脈と意図に適した体裁を作成しているわけではない	iii. 執筆のフォーマットを最小限利用し、それが必ずしも文脈と意図に適した体裁を作成しているわけではない		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
3 to 4	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	3 to 4
	i. 文脈や意図に応じた組織的構造をまずまずの程度使用する	i. 文脈と意図に役立つ組織的構造を適切に利用する	i. 文脈と意図に役立つ組織的構造を適切に利用する	i. 文脈と意図に応じた組織的構造をまずまず使用する	
	ii. 意見や考えを、ある程度の論理を用いて整理する	ii. 意見や考えを、ある程度の一貫性と論理で整理する	ii. 意見や考えを、ある程度の一貫性と論理で整理する	ii. 意見や考えを、ある程度の一貫性と論理で整理する	
iii. 執筆のフォーマットをまずまずの程度利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットをまずまず利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
5 to 6	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	5 to 6
	i. 文脈や意図に適した組織的構造の使用に優れている	i. 文脈と意図に応じた組織的構造を適切に利用する	i. 文脈と意図に応じた組織的構造を適切に利用する	i. 文脈と意図に応じた組織的構造を適切に使用する	
	ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを論理的な方法で整理する	ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で整理する	ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で整理する	ii. 互いの考えを踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で整理する	
iii. 執筆のフォーマットの利用に優れ、文脈や意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを適切に利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
7 to 8	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	7 to 8
	i. 文脈や意図に効果的な組織的構造を、高度な方法で使用する	i. 文脈と意図に効果的に応じた組織的構造を、高度な方法で利用する	i. 文脈と意図に効果的に応じた組織的構造を、高度な方法で利用する	i. 文脈と意図に効果的に応じた組織的構造を、高度な方法で使用する	
	ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを論理的な方法で効果的に整理する	ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で効果的に整理する	ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを一貫性のある論理的な方法で効果的に整理する	ii. 互いの考えを高度に踏まえながら、意見や考えを持続的で一貫性のある、論理的な方法で効果的に整理する	
iii. 執筆のフォーマットの利用にきわめて優れ、効果的な体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを優れた方法で利用して、効果的な体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを優れた方法で利用して、効果的な体裁を作成する	iii. 執筆のフォーマットを優れた方法で利用して、効果的な体裁を作成する		

国語

Criterion C Producing Text 創作

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
1 to 2	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	1 to 2
	i. 創造的プロセスへの限定的な個人的関わりを示すテキストを創作する。考えや想像力は限定的で、新しいものの見方や考え方の探究は最小限にとどまる	i. 創造的プロセスへの限定的な個人的関わりを示すテキストを創作する。思考、想像力、感受性は限定的で、新しいものの見方やアイデアの探究および考察は最小限にとどまる	i. 創造的プロセスへの限定的な個人的関わりを示すテキストを創作する。思考、想像力、感受性は限定的で、新しいものの見方やアイデアの探究および考察は最小限にとどまる	i. 創造的プロセスへの限定的な個人的関わりを示すテキストを創作する。洞察、想像力、感受性は限定的で、新しいものの見方やアイデアの探究、批判的な振り返りは最小限にとどまる	
	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関するスタイル(文体)の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への認識が限定的であることを示している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関するスタイル(文体)の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への限定的な認識を示す	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関するスタイル(文体)の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への限定的な認識を示す	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関するスタイル(文体)の選択は最小限にとどまり、受け手に与える影響への認識は限られている	
iii. 考えを裏づけるために選ぶ関連する詳細と例はごく少数にとどまる	iii. アイデアを発展させるために、関連するごくわずかな詳細情報と実例を選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連するごくわずかな詳細情報と実例を選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をごく少数選び出す		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
3 to 4	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	3 to 4
	i. 創造的プロセスへのまずまずの個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度を考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方をある程度探究している	i. 創造的プロセスへのまずまずの個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへのある程度の探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへのまずまずの個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへのある程度の探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへのまずまずの個人的関わりを示すテキストを創作する。ある程度の洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへのある程度の探究や批判的な振り返りをする	
	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関してスタイル(文体)の選択をある程度行い、受け手に与える影響についてある程度の認識を示している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響へのまずまずの認識を示すスタイル(文体)をある程度選択している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響へのまずまずの認識を示すスタイル(文体)をある程度選択している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響をまずまず認識したある程度のスタイル(文体)を選択する	
iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例をいくつか選ぶ	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をある程度選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をある程度選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例をある程度選び出す		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
5 to 6	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	5 to 6
	i. 創造的プロセスへの内容のある個人的関わりを示すテキストを創作する。内容のある考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方について内容のある探究がなされている	i. 創造的プロセスへのかなりの個人的関わりを示すテキストを創作する。多くの思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの内容のある探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへのかなりの個人的関わりを示すテキストを創作する。多くの思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの内容のある探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへのかなりの個人的関わりを示すテキストを創作する。かなりの量の洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの内容のある探究や批判的な振り返りをする	
	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関して十分に考慮されたスタイル(文体)を選択し、受け手に与える影響への優れた認識を示している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響へのまずまずの認識を示す考え抜いたスタイル(文体)を選択する	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響へのまずまずの認識を示す考え抜いたスタイル(文体)を選択する	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響を十分に認識した、考え抜いたスタイル(文体)を選択する	
iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例を十分に選ぶ	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を十分に選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を十分に選び出す	iii. アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を十分に選び出す		

Achievement Level	Descriptor 評価規準の説明				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
7 to 8	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	7 to 8
	i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な考えや想像力を示し、新しいものの見方や考え方について鋭い探究がなされている	i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの鋭い探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な思考、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの鋭い探究および考察を示す	i. 創造的プロセスへの高度な個人的関わりを示すテキストを創作する。高度な洞察、想像力、感受性と、新しいものの見方やアイデアへの鋭い探究や批判的な振り返りを示す	
	ii. 言語的、文学的、視覚的表現に関して賢明なスタイル(文体)を選択し、受け手に与える影響への明確な認識を示している	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響への明確な認識を示す賢明なスタイル(文体)を選択する	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響への明確な認識を示す賢明なスタイル(文体)を選択する	ii. 言語的、文学的、視覚的表現の観点から、受け手に与える影響の十分な認識を示す賢明なスタイル(文体)を選択する	
	iii. 考えを裏づけるために、関連する詳細と例を豊富に選ぶ	iii. アイデアを的確に発展させるために、関連する詳細情報と実例を豊富に選び出す	iii. アイデアを的確に発展させるために、関連する詳細情報と実例を豊富に選び出す	iii. アイデアを的確に発展させるために、関連する詳細情報と実例を豊富に選び出す	

国語

Criterion D Using Language 言語の使用

Achievement Level	Descriptor				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
1 to 2	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	1 to 2
	i. 適切な語彙および表現形式を限定的な範囲で使用する	i. 適切な語彙および表現形式を限定的な範囲で使用する	i. 適切な語彙および表現形式を限定的な範囲で使用する	i. 適切な語彙および表現形式を限定的な範囲で使用する	
	ii. 文脈や意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じていない、不適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	
	iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法の正確な使用が限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	
	iv. 綴り／書く、発音する際の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iv. 綴り、書き、発音する際の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iv. 綴り、書き、発音する際の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	iv. 綴り、書き、発音する際の正確さが限定的である。誤用によってしばしばコミュニケーションが妨げられる	
	v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である	v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である	v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である	v. 非言語的コミュニケーション技法の利用が限定的または不適切である	

Achievement Level	Descriptor				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
3 to 4	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	3 to 4
	i. 適切な語彙、構文、表現形式をまずまずの範囲で使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をまずまずの範囲で使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をまずまずの範囲で使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をまずまずの範囲で使用する	
	ii. 時々、文脈や意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 時々、文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 時々、文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 時々、文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	
	iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に使用する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に用いる。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に用いる。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iii. 文法、統語法、句読法をある程度正確に用いる。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	
	iv. ある程度の正確さをもって綴り／書く、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iv. ある程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iv. ある程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	iv. ある程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によって時々コミュニケーションが妨げられる	
	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法をある程度利用する	

Achievement Level	Descriptor				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
5 to 6	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	5 to 6
	i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で適切に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で適切に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で適切に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式を多様な範囲で適切に使用する	
	ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、適切に書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、適切に書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、適切に書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で、適切に書き、話す	
	iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に使用する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に用いる。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に用いる。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iii. 文法、統語法、句読法をかなりの程度正確に用いる。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	
	iv. かなりの程度の正確さをもって綴り／書く、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iv. かなりの程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iv. かなりの程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	iv. かなりの程度正確に綴り、書き、発音する。誤用によってコミュニケーションが妨げられることはない	
	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を十分に利用する	

Achievement Level	Descriptor				Achievement Level
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
7 to 8	生徒は	生徒は	生徒は	生徒は	7 to 8
	i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する	i. 適切な語彙、構文、表現形式をさまざまな範囲で効果的に使用する	
	ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	ii. 文脈と意図に応じた、常に適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す	
	iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで使用する。誤用は少なく、コミュニケーションは効果的である	iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで用いる。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで用いる。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	iii. 文法、統語法、句読法を高度な正確さで用いる。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	
	iv. 高度な正確さをもって綴る / 書く、発音する。誤用は少なく、コミュニケーションは効果的である	iv. 高度な正確さで綴り、書き、発音する。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	iv. 高度な正確さで綴り、書き、発音する。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	iv. 高度な正確さで綴り、書き、発音する。誤用が少なく、コミュニケーションは効果的である	
	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する	v. 適切な非言語的コミュニケーション技法を効果的に利用する	